

基本計画素案(5・6章)に対する当日欠席委員意見への回答

資料31

委員意見		回答	
章一項目	内容	内容	担当課
5-1 土地利用と景観の形成	「基本方針」に「災害に対する安全性の確保」とあるので、それに対応する形で「現況と課題」にも災害対応に関する記述があった方が望ましい。記述内容は「3-4 防災・減災対策の推進」の内容との整合性が図れたものとする。	「現況と課題」の4点目を「災害に対する安全性を確保しつつ、郷土に対する誇りや愛着が持てるよう豊かな自然や歴史ある町並みなど固有の景観を活かした魅力ある景観づくりの必要があります。」と修正します。	都市計画課
	「現況と課題」の4番目に「郷土に対する誇りや愛着をもった」という精神論的な表現が用いられているが、「魅力ある景観づくり」としてはもっと現実的な取組内容を想起させる表現の方が適しているのではないか。	同上	
5-5 住宅対策の推進	「現況と課題」の2番目に「利活用と除却」という表現があるが、一般的に住宅は「除却」より「取壊し」の方が表現として相応しいのではないか。	法律では「取壊し」のことを「除却」と表現しているため、本市においても「除却」と記載しておりますので、ご理解の程よろしくお願ひします。	空き家対策室
5-7 水道水の安定供給	「3.企業経営の健全運営」の「目標指標」として「経常収支比率」が掲げられているが、数値が年々下がっていく要因は何か。	経常収支比率が下がっていく要因は、収入については人口減少に伴う水道料金収入の減少であり、支出については減価償却費の増加であります。減価償却費の増加につきましては、老朽化した施設等を更新している証であり、必ずしもマイナス要因ではないと考えています。今後は、この収支ギャップ解消のための施策を実施し、経常収支比率の改善に取り組んでまいります。	水道総務課
5-9 水と緑の保全	「基本方針」に「森林、清らかで豊富な水、清々しい空気を背景とした」とあるが、「森林、清らかで豊富な水、清々しい空気の保全を背景とした」の方が適切ではないか。	「森林」「清らかで豊富な水」「清々しい空気」については、水源都市としてのあるべき姿として必要な要件を挙げたものであり、ご意見の「保全」はそのあるべき姿を実現するための手段であることから、修正は馴染まないものと考えますのでご理解の程よろしくお願ひします。	事務局
	「2.森林の保全」の「目標指標」として「森林ボランティアによる協定面積」が掲げられているが、このボランティアは主に市民ボランティアを指していると思われ、市民に頼るのにも限界があると思う。企業にも協力を求める必要があると思うので、「ボランティアに協力する企業数」を目標指標に加えられないか。	本目標指標である「森林ボランティアによる協定面積」には企業ボランティアも含まれており、ボランティア団体数で見ると、約半数の5団体が企業ボランティアとなっております。「ボランティアに協力する企業数」を新たな目標指標に設定することは見送らせていただきますが、今後も、企業ボランティアへの周知等について取り組んでまいります。	林業振興課